

# 曲目解説

研究熱心な各校顧問の選曲により、毎回充実したプログラムで注目されているジョイントコンサート。今回も注目作が満載の情熱的なプログラムでお送りします。解説も頑張って書きます。お楽しみに！

## 各校演奏

### ●吹奏楽のためのプレリュード～「時計台の鐘」の旋律による 鈴木英史

*Prelude for Wind Ensemble*

*Eiji Suzuki ( b.1965:日本 )*

～ *Based on the Melody of "Tokeidai-no-Kane"*

1878年(明治11年)に建築された札幌市時計台(旧札幌農学校演舞場)は、重要文化財として現在でも多くの人々が訪れる観光名所となっている。また、札幌市には「時計台の鐘」という歌もあるそうで、市民に大変親しまれている。本作はそのメロディを引用しており、最初は断片的に現れ、次第に盛り上がりながら、最後は完全な形で現れ、「希望への讃歌」を奏でるといった構成の曲である。2000年に開催された札幌市の芸術イベントのために作曲された。

### ●行進曲「K点を超えて」

高橋伸哉

*March "Beyond the Critical Point"*

*Shin'ya Takahashi ( b.1962:日本 )*

1999年度、全日本吹奏楽コンクール課題曲として発表され、その年に多くの団体に演奏された。前年に開催された長野冬季オリンピックでの、日本人選手の活躍に着想を得て作曲されたもので、題名の「K点」はスキージャンプの用語で、着地時の極限点を意味する。これを越えて飛距離を伸ばすのは着地時に危険を伴うが、現在ではK点を超えるかどうかで勝敗の分かれ目になるという。そんな限界に恐れることなく挑み続ける選手たちの勇気を讃えた曲。

### ●ノートルダムの鐘・メドレー

アラン・メンケン(編曲:浅野由莉)

*The Hunchback of Notre Dame ( Medley )*

*Alan Menken ( b.1949:アメリカ )*

1996年公開、ディズニーの長編アニメ映画「ノートルダムの鐘」は、ノートルダム大聖堂の鐘楼に訳あって隔離された主人公の男が、外界の祭りの様子に我慢出来ずに建物を抜け出し、そこで美しいジプシーの踊り子に出会い、心を通わせる…、といった内容の、ミュージカル仕立ての感動作である。その映画音楽より、①ノートルダムの鐘、②トプシー・ターヴィー、③サムデイ、以上3曲を抜粋したメドレー。小編成向けに書かれた優れた編曲。2019年出版。

### ●アトラス ～夢への地図～

福島弘和

*Atlas, a Map to the Futures Dream*

*Hirokazu Fukushima ( b.1971:日本 )*

本作は「自分の進むべき道を探す」という設定に基づいて作曲されたもので、これを探すためには地図が必要であるから、タイトルも地図を意味する「アトラス」となった。副題は「夢への地図」となっているが、本作において「地図」というアイテムは、地理的な情報を得るものではなく、これから夢に向かって歩いてゆく人生の、道程や方向を探すために大切なものとして描かれている。人生の岐路に立った時、一体どちらに進んでゆくか。強い意志を持って進むべき道を探すための「地図」と言った意味合いが込められている。2010年作曲。

## ●「サグラダファミリアの鐘」- ガウディの継がれゆく意志

八木澤教司

*The Bells of "Sagrada Familia"  
- An Everlasting will of Antoni Gaudi*

Satoshi Yagisawa ( b.1975:日本 )

スペインのサグラダファミリア教会は、天才建築家と称されたガウディが設計した壮大な建造物で、1882年に建築が始まった。しかし、ガウディは完成を見ることなく1926年に他界。生前、詳細な設計図を残しておらず、さらに、弟子の残した資料や模型も1930年代に起きたスペイン内戦で散逸し、完成は不可能と思われた。しかし職人による伝承や大まかな外観のデッサンなど、残されたわずかな資料をもとに、ガウディの設計を推測しながら現在も建設も続けられている。このようなガウディの意志を受け継ぐものたちの想いと共に、キリストの生涯である「生誕」、「受難」、「栄光」を音楽を通して描写したのが本作である。2009年作曲。

ちなみに、サグラダファミリア教会は完成まで、あと100年以上かかると言われていたが、近年の技術革新や費用確保が順調に進んだことで、2026年に完成すると発表されました。

そうぼうあいか

## ●蒼氓愛歌 ~三つの異なる表現で~

清水大輔

*Song of Gaia ~Prelude, Dance and Song~*

Daisuke Shimizu ( b.1980:日本 )

蒼氓(そうぼう)とは人民を意味を持つ言葉。それに「愛歌」を付け加え、「人民に愛される歌」という意味で「蒼氓愛歌」という造語的なタイトルが付けられた。この曲がその意味の通りになるようにと、作曲者の願いも込められている。小組曲的な構成で3つの楽章に分かれており、それぞれ全く異なる表現方法で書かれているが、曲は切れ目なく演奏される。2012年作曲。

- ・「序」：ファンファーレ的なイメージ。この作品を支配する様々なモチーフが登場する。
- ・「舞」：打楽器を多用したリズムミク的な音楽。ロック、ポップを意識して書かれている。
- ・「歌」：アフリカとアジアのテイストが融合した壮大な音楽。そして壮大な愛歌(讃歌)。

## ●キャンディー序曲

L.バーンスタイン (編曲:C.グランドマン)

*Overture to Candide*

L.Bernstein ( 1918-1990:アメリカ )

1956年初演のミュージカル「キャンディー」は、短期間で打ち切られ、興行的には失敗であった。1973年に改訂版が再演されて、これ以降、何度か改訂が繰り返されて現在に至る。20世紀の名指揮者であったバーンスタインは、作曲家としても名高く、この作品も代表作の1つとして知られるが、他界する前年に自らも作業に加わり、大幅に改訂された1989年版が完全版とされている。また日本公演も2001年、2004年、2010年と過去3回行われた。原曲は管弦楽曲で全33曲あるが、序曲が特に有名である。吹奏楽編成への編曲は、グランドマンによる5曲抜粋した組曲版と、今回演奏する序曲が広く知られており、吹奏楽でも人気が高い。

## ■ドリーム・クルーズ

八木澤教司

ジョイントコンサート第20回記念作品。第20回の参加校7校(国分、市川西、松戸矢切、松戸秋山、松戸六実、船橋西、白井)の共同委嘱作です。学校統合で失われた学校名もありますが、この曲の中に当時の思い出として、今でも息づいています。ヨーロッパの会社から出版されています。